

会長の挨拶 6 ロータリー思想の一般的特質について

ロータリーはこの世に存在する諸々の考え方を対比し、其々の立場を尊重すると同時に、主体的にその相互交流を要求し、相互の思想の限界を自覚させ、転機を得さしめる機能を持つ人生の哲学のことである。

この会員相互の思想交流という立場から見るとロータリー思想に現れる概念の特質が明らかとなる。

ロータリーの世界にあっては、最高絶対の単一概念が存在しないということである。ロータリー理論の場で現れる概念は必ず、最低二個の概念の組み合わせより成る。例えば、理想と実践、親睦と奉仕、利己と利他及び高い境地と思いやりの如きがこれである。

ロータリー理論上に現れる概念は、相対的概念であって、概念相互の相対性を心得ないで、どの一つをも絶対概念だと理解した時、ロータリー理論は永遠に理解の対象足り得なく成るということを心に銘記しておかなければならない。従来 of 諸々の思想上の立場が真善美の各分野にわたり単一概念の追求によって、窮地の理解を開拓することに努力し、幾つかの偉大な成果を人類文化史に打ち建てながらも、それと同時に、その追求の過程において、自己の正当性を主張する余り、その境地の高さを以て対立的思想を批判攻撃し、果ては対立的立場を死滅させることを以て正義なりと考えたこともまた忘れてはならないのであって、これらの伝統的立場とロータリーとは根本的にその内容を異にするものであることを理解する必要がある。

かくしてロータリーが一種の総合哲学として位置付けられるにはそれなりの理由のあることなのである。このように考えるとロータリーの世界には不変の固定概念はあり得ないということを意味するのである。

(小堀憲助著 「ロータリー思想の理論構造」より引用)